



適切な支援ってなんだろう？



「なんだかうちの子、色んな物に興味があって、気になることがあると勝手に
行ったり触ったりして、落ち着きがないな」「ご飯などの座らなくちゃいけない
場面でも、ずっと座っていられなくていつもフラフラしてしまうな」「だめ、
と注意しても聞いてもらえず、よく癩癩を起こすな」「朝登園しても先生に挨拶
できなかったり、注目浴びたりすることが苦手だな」

お子様と関わる中で、なんだかうまくいかない、どうしたらよいか分からない、
と感じる瞬間はありませんか？子どもたちが気になる行動をする背景には、本
当に様々なことがあります。

<気になる姿の背景って？>

例えば、皆で行う活動に集中できない子がいるとしましょう。保育教育の専門
知識がない状態でその様子を見たら、「みんなで一緒にやる時間です」と注意し
たくなるかもしれません。

しかしながら、私たち保育士はその様子の背景を考えます。例えば、「興味の
対象の幅が極端に狭く、自分が興味のないことに注意を向けることが難しいの
かもしれない」、「視界に入る刺激に敏感で、周囲に気になるものがあると活動だ
けに注意をむけることが難しいのかもしれない」、「集団への指示が聞き取れず、
何をするのか理解ができていないのかもしれない」などです。このような場合、
きつく叱ってもできるようなにはならず、むしろ逆効果になる場合もあります。

<お子様の困りごとを理解するために>

子どもたちの気になる行動に対して、保育園がご案内する相談機関の一つに
“療育センター”という施設があります。療育センターはお子様の姿に心配のあ
るご家族の方の相談に応じる施設です。

保護者の皆様の中で眼鏡を掛けている方はいらっしゃいますか？視力が弱け
れば眼鏡を掛けて生活しやすくする。これは当たり前のことですね。療育センタ
ーも子どもたちにとっては同じ役割があります。視力に合わせて、ちょうどいい
度数の眼鏡をかけるのと同じように、子どもの苦手の背景を探って、適切な関わり
方や環境を用意することができます。

療育という言葉を知ると“何か診断名をつけられて、悪いレッテルを貼られて
しまうのではないか”と考える保護者の方も少なくないと思います。しかしなが
ら、診断名は「この子には発達的にこんな苦手なことや得意なことがある」と、
周囲の人がその子を正しく共通認識するためのものと考えてみてください。

重要なのは診断がつくかどうかではなく、療育センターに相談したことで見えてくるその子の状態を捉えて、適切な関わりをすることで、より良い成長へ導くことだと思います。子どもは例えば視力が弱くても「目が悪いから眼鏡を作ってほしい」と自分では言えません。大人から見た気になる姿は、実は子ども本人からしたら困っている姿です。お子様の困り感にいち早く気付いて適切な支援をすることができるのは、私たち大人だけなのです。

このお便りを読んで、少しでも療育センターへのハードルが低くなり、お子様が困っているときに、気軽に足を運べる施設として認識されていくことを願います。

＜千葉市療育センター 療育相談所＞

所在地 千葉市美浜区高浜 4-8-3

電話 043 - 216 - 2401

☆千葉市の療育センターは時期によっては予約を取るのに半年から長いと1年近く待つ可能性もございます。そこで当園では、就学に向けて、園生活の中で少しでもお子様が困っている姿が見られた場合に、療育センターをすすめることができます。その理由は、“少し気に掛けた方がいい姿はあるけれど、まだ保護者様には伝えないで大丈夫かな”と思っているにも、成長に伴ってその姿が顕著になってきたときに、それでは予約が間に合わないケースがあるからです。実際に小学校就学前になって、「やはり子どもが心配だから、療育センターに相談しようと思ったら、小学校入学までに予約が取れなくて、後悔した」というお話を耳にすることもございます。一方で、「専門知識のある方々に丁寧に見てもらって特に問題ないと言われて安心した。むしろ保育園で本人が困っていることの原因を、専門的な視点から教えてもらって、そこを意識して関わっていけばいいのだと知れて、いい機会になった」とお話される方も多くいらっしゃいます。発達の遅れを指摘するために勧めるものではなく、保護者の皆様とお子様について考える選択肢をできる限り広げ、お子様をより良い支援に繋げるためのものだとご理解いただけますと幸いです。

☆子育てをしていると不安や心配はつきものだと思います。また、集団生活での様子や同学年の子と比べてわが子の成長はどうなのか、というのはご家庭での姿だけでは中々分からないことだと思います。もし不安を抱えている保護者の方がいらっしゃいましたら、担任までお気軽にお声掛けください。お子様のより良い成長のためにも、一人で悩まず一緒に考えましょう。